



瑞二だより

教育目標

自立・貢献・生き抜く力

発行者 江戸川区立瑞江第二中学校
校長 横枕 耕史
発行所 東京都江戸川区瑞江4-54-1
発行日 令和8年(2026年)4月30日
第558号



Ⅰ 学年宿泊学習を終えて

4月24日から25日まで、1学年は宿泊学習を行いました。中学校生活のスタート時における「友達づくり」を大きな目標に掲げた今回の宿泊学習では、「千葉県君津青少年自然の家」で生徒一人一人が仲間と関わりながら活動し、互いを知り合い、学年としての絆を深める2日間となりました。

1日目は、まず体育館で仲間づくりのアクティビティからスタートしました。はじめは緊張した様子も見られましたが、ジャンケンゲーム、声を掛け合い仲間を集めるグループづくり、フラフープくぐりチャレンジなど声を掛け合い、協力し合う中で、次第に笑顔が増えていきました。基本的なコミュニケーションを学ぶ姿ことができました。

次に、班ごとにスコアオリエンテーリングを行いました。地図を手に、山道をどう歩いていくかルートを相談しながら自然の中を進む活動では、多少のトラブルもありましたが、その都度話し合いながら課題に取り組むことができました。仲間と力を合わせることの大切さを実感しました。

宿舎の三日月シーパークホテル安房鴨川では、美味しい料理を堪能し、部屋で仲間と楽しい時間を過ごし交流を深めました。

2日目の創作活動では、木々の葉を採取し、布袋の上に葉を並べてハンマーで叩いて染める世界に一つだけのエコバッグを制作しました。自然の色や葉の形を生かした作品づくりに、生徒たちは集中して取り組み、完成したエコバッグを手にしたときには、どの生徒も満足そうな表情を見せていました。自然を大切にしたい気持ちと、表現する楽しさの両方を味わう時間となりました。

この2日間を通して、生徒たちは互いを知り合い、集団としてのまとまりを深めました。「新しい友達ができた」「協力することの大切さが分かった」といった声も多く聞かれ、これからの学校生活につながる大切な一歩となったことがうかがえます。

今後は、この宿泊学習で育んだ人とのつながりや思いやりの心をこれからの学校生活の中でさら

に広げ、深めていってほしいと願っています。保護者の皆様におかれましては、準備等へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

開校記念日に寄せて

5月1日は開校記念日です。今年が開校60周年の節目にあたり、本校の歴史について、調べてみました。「開校十周年記念誌」には初代校長の井上国秋先生が当時を回想された文章が寄せられていましたので、その一部を要約してご紹介します。

瑞江第二中学校の開校当初は厳しい教育環境でした。特に印象深いものとして挙げられたのが、整備が十分でなかった運動場です。瓦礫が散在し、雨が降れば水たまりが広がる中で、生徒と教職員が力を合わせて瓦礫拾いを行い、少しずつ運動場を整えていったそうです。また、通学路も、晴れた日には川や自然を感じられる一方で、雨の日には風雨や泥水に悩まされる危険な道でした。その一方で、学校の屋上から見える都市の建物や遠くの山並み、田園を舞う白鷺の姿など、心を和ませる風景もまた、忘れがたい思い出として語られています。やがて体育館やプール、校庭、通学路が整備され、本校は「これが区立中学校か」と地域の人々が驚くほどの環境へと成長していきました。校庭には、心の豊かさを育む美しい花壇の「静の場」と、心身を鍛える運動場の「動の場」という考え方が生かされ、教育環境づくりが進められてきました。こうした学校の発展の背景には、区教育委員会の理解はもちろん、保護者や地域の皆様の深い愛情と熱意がありました。校舎前の老いつつじや校内に植えられた木々、校歌の石碑など一つ一つに、その思いが込められていることを初代校長は感慨をもって記されています。初代校長の文章は、本校が多くの人々に支えられながら歩んできた歴史と、これからも大切にしていきたい学校の原点を私たちに静かに語りかけています。

11月2日の開校記念式典は、これまでの歴史に相応しい式典になるようにしたいと思います。